

グループワーク「再配置モデルの検討②」

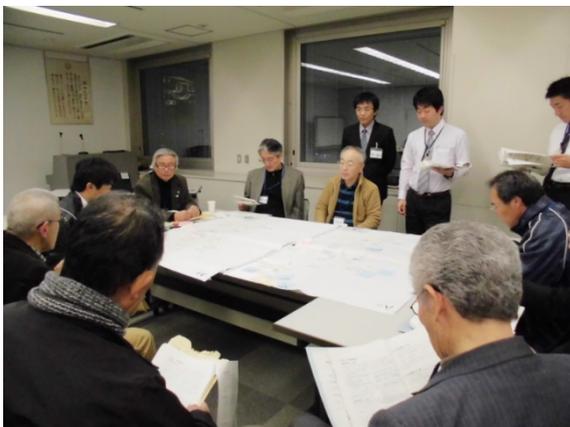
1. 第3回公共施設再配置ワークショップの様子



全体の様子



事務局からのあいさつ



グループワークの様子



グループワークの様子



グループワークの様子



アドバイザーによる先進事例の紹介

2. 各グループの発表内容

A. 板取・洞戸エリアチーム

- 平成 28 年度より板取中学校が洞戸中学校に統合されます。板取中学校の校舎、体育館などの施設が空きます。今後、どのように活用するかを話し合いました。民間に委託して老人福祉施設にしたらどうかという意見が出ました。しかし、この地域に受け手の民間が来てくれるかどうかの問題があります。また、板取川温泉についても同じことです。
- 20 年後をシミュレーションしましたが、板取が人口 800 人くらい、洞戸が人口 1,200 人くらいになります。そうするとかなりさみしい形になります。必要な施設も最小限のものになります。すると、ますます集落が無くなっていくのを待つような形になります。それでは、いけません。どこで歯止めをするか、今残っている者たちで対策を考えていきたいです。経済的にも体力的にも精神的にも元気な村になるには、どうしたらいいかを考えたいです。
- 今後、地域委員会やまちづくり委員会など、行政と共に対策を考えたいです。ただ、人口が減るから施設を減らすのでは、意味がないと思います。
- 先日、板取地区で成人式がありました。出席者は 11 人。全員、板取地区以外からの参加でした。その方達から、自分たちが育った板取の元気がない、働く場所がないという話を聞いたそうです。
- 板取地区、洞戸地区で地域バスを運行しています。しかし、板取は板取だけで運行しています。洞戸は洞戸だけで運行しています。そういうことではなく、板取洞戸として、ひとつのゾーンとして考えていくべきだと思います。流通、交通のアクセスについて、今後の検討課題だと思います。これをもとに、いろいろ検討したいと思います。

B. 上之保・武儀エリアチーム

- 3 班、4 班のグループの差は資料の 3 ページに書いてある通りです。上之保、武儀は、地理的に近い位置にあります。それが幸いしています。
- 話し合いのポイントは、小中学校、老人施設を 1 箇所にとどめるか、とどめないかでした。
- 私は 3 班です。私は今 65 歳ですが、あと、20 年したら 85 歳になります。私はおそらくこの世にはいないでしょう。そういうことで、あれもこれも切りましょう、ということでピンク色の築年数の高いものは全部切りました。
- 最終的に小学校も統合、保育園も統合しました。中学校はすでに統合が決まっています。ただし、地域の事務所については、災害の拠点となりますので残しました。
- 立場の違う人になってみての検討は、統合するのは結構だが、交通手段が問題になるだろうという結論になりました。
- 削減効果ですが、前回 3 班は 51%、4 班は 33% でした。今回は、3 班が 51%、4 班は 46% になりました。
- 今回の検討会議では、優等生であるが地元には帰れないという結論になりました。

C. 関・武芸川エリアチーム

- 2つの班はおおむね同じ様な考え方でした。その中で違いがある所を重点的に話し合いました。
- 武芸川ではサロンが先進的に進んでいます。コミュニティとして確立されています。ある所では、自分達でお金を出し合い集会所を作られています。だから、市の施設がなくても、困らないとの事でした。
- このグループだけの意見だけではなく、地元の人たちの意見も集約していく必要があると感じました。
- 色んな人が集まる場と、そこへ行く為の公共交通手段の整備が必要です。
- 建物の問題だけではなく、ソフト面、運用、人材も含め考える必要があります。
- 立場の違う人になってみての検討をしました。今現在は、学校の管理を先生達にしてもらっています。その為、放課後、運動場を使うことができません。子ども達が遊べません。それを、市が管理するようになれば、先生達の負担が減り、子ども達が放課後、運動場を使うことができます。クラブで遊んだり、学童も、もっと遅くまで預かったりできます。
- 建物の問題も含め、ソフトの問題も一緒に検討する必要があるという結論でした。

3. 感想、意見交換

■意見

我々Cグループの中でも、色々な意見が出ました。ワークショップをやり、自分たちの為にもなりました。私も、こんな素晴らしいことを考えている人がいると感じました。市の方にはお願いですが、HPにやったことを公開して欲しいです。

■事務局からの回答

今までの経過を含め、公表させていただく予定です。今日のワークショップも含め、掲載したいと思います。しばらくお待ちください。

4. 参加者アンケート

■参加した感想などについて

《ワークショップの結果が参考になったという主な意見》

- ・ 大勢の人の意見を聞いたことを今後の地域委員会の参考にしたい。
- ・ 各地区の思いがあり参加してよかった。
- ・ かなり踏み込んだ意見がでて大変参考になった。こうした機会が大切だなと思った。
- ・ 公共施設の再配置計画が、いかに重要であるかがわかった。
- ・ 先進的な取組事例はこれからの関市の発展のために非常に参考になった。

《再配置に関する主な意見》

- ・ 武儀と上之保、どの建物も共有できる施設があり、施設間の移動もわりと短時間で移動できるところから、集約・廃止はやむを得ないと思います。
- ・ 20年後の状況を考えると自ずと答えが出てくるように思われた。

《今後の議論の進め方に関する主な意見》

- ・ 整理・統合を含めて地域の将来の発展を考えるワークショップにする。
- ・ 立場、地域によって考え方でかなりの違いが出てくる。市としての方向は身の丈にあった施設としていきたいが、ただ減らすのではなく、地域の活性化をどうするかという側面を合わせて検討していく必要があると思われる。

《多様な参加者を望む主な意見》

- ・ 年代に偏りがあり、もう少し女性の参加があるとよい。
- ・ 実際に小中高生や主婦が参加していないので問題提起できていないのも不満です。

《検討内容が難しかったという主な意見》

- ・ 20年後の姿を想像することが難しい。現実からの想定だけか？ それに政策的な希望をプラスするかで、20年後の姿が大きく異なる。
- ・ わきあいあいとでき、雰囲気は大変良かったと思う。地域外の問題であったため、一般的なことしか言えなかった。

■今後の公共施設再配置について

《施設の利活用に関する意見》

- ・ 廃校は老人ホームにして待機者削減に寄与できるのでは？
- ・ まだまだ使える施設は、利用法を変えてでも使用したい。
- ・ 関市公共施設を市民が気軽に使えるようにしていけば良いと思う。
- ・ 市民の大多数は、市にこんな施設があると知らない。また、利用したことがほとんどない施設がいっぱいあると思った。そうした面からも積極的な公共施設の再配置をお願いしたい。

《施設の維持、新設に関する意見》

- ・ 旧郡部へのサービス低下を心配する。災害時の拠点となる地域事務所、消防出張所、医療関係は存続を願う。
- ・ 壊していくだけでなく、20年たつと建てるべきものも出てくる。この地域であれば、小中学校はそれに該当する。小中幼保さらに老、事務所が一体となる施設の新設が必要と思われる。また、防災についても必要な建物を建てる必要がある。

《移動手手段・地域バランスに関する意見》

- ・ 洞戸・板取地区は同一地区のエリアとして地域バス運行など、もっと行政におかれても指導されて一体化を図られたい。学童、幼児のバスの送迎についても、地域バスの運行の中で考えれば十二分に無駄的経費の節約になる。
- ・ 公共交通の問題を考えて欲しい。
- ・ 場所に行くまでの足の確保をどうするか。
- ・ 現状の建物で無理矢理、組み入れた為、今のところバランスが悪く思える所もある。

《ワークショップに関する意見》

- ・ こうした議論を継続してほしい。同じことを繰り返し繰り返し議論することで方向性が見出せる。
- ・ ワークショップで出た意見を公開してもらいたい。
- ・ 世代別に20～、30代～など、区切ったワークショップを開催して欲しい。

《その他》

- ・ その地域のいい所をもっと外に向けPRして、人口を減らさないようにしたらいいと思います。
- ・ 一人暮らしの老人（家庭）の見守り等、市としてはもっと充実して欲しい。
- ・ なにかにつけ、施設は廃止すると仕事なくなる人がいる。